

港湾構造物設計のスペシャリスト 編

[登壇者] 山本 修司

(財)沿岸技術研究センター 理事

わが国で初めて本格的な性能規定型の技術基準(港湾)の導入を決定し、その枠組みを策定した山本修司さん。今なお港湾構造物の設計の確認審査を務める山本さんに、土木技術者としての信念と学生へのメッセージを伺った。

腕 電子計算機と格闘した人生！
無数の失敗から得たもの

「数学、物理は好きだけど、どうも国語、英語、化学は好きになれなかった」。大学進学を決めるとき、得意科目を活かして国の発展に貢献できると考え「土木の道」を選んだ山本さん。大学で研究生活が始まると、朝7時30分に登校して午前中は計算機の数値入力、午後は友人と遊び、夕方に計算結果を確認する日々だったそう。なぜなら、当時はようやく電子計算機が使えるようになった時代。基本は手計算で、電子計算と言っても、1回の計算に何時間もかかった。何回も入力ミスをして講座費を使い果たした。

卒業後は、「国を支えるのは役人以外の道はない!!」と決意し、旧運輸省に入省。山本さんの港湾一筋の人生が始まった。入省後も、研究所などで港湾設計に従事され、「手計算の圧密計算で月100時間の残業もありました」と、語られた。そんな経験から、「設計作業を楽にして、考える時間をつく

りたい! それは多くの技術者にも役立つ」と考え、プログラム開発に熱中された。山本さんは語る。「手計算の辛さを知っているからパソコンの有難さがわかる。当たり前のことに感謝しないとね」。

腕 技術基準で世界と戦う! 危機感が心を突き動かす!

1997年、山本さんに大きな転機が訪れた。港湾に関する技術基準の作成業務に従事しはじめて、スペインへ学会発表のために出張した際、「欧州のEurocodes作成にかける熱意・粘り強さとその海外普及戦略は衝撃だった」と感じたそう。なかでもイギリスの積極的な海外発信への働きかけを目的の当たりとして、「日本もこのままでは国際競争で生き残れない」と危機感を抱いて帰国された。その後は世界の潮流を意識して、港湾分野で初となる性能設計に基づく技術基準の策定を実現したことに加え、海外発信のために英語版の改定などにも取り組んだ。そんな



写真1 山本修司氏

な世界が競争相手と語る山本さんだが、英語ではいまだに大変苦勞をされているそう。大学生の皆さんには、英語を早く修得することをおススメします」と、当時の悔しさをにじませながらメッセージを送った。

腕 休日には主夫に! 何事も短時間でやる!

リラックス方法は、と尋ねると、「休日には主夫になること!」と楽しげに語る山本さん。朝は7時に起床して、日頃の家族への感謝も込めて、掃除、洗濯、食事もつくられるそう。キーワードは、「テキパキ! 短時間!」。主夫の仕事素早く終わらせて、考えごとをする自由な時間をつくるためだそう。

そんな山本さんの仕事術の一つが、「70%の結論で前へ進め!」である。「昔、自分の中で完璧だと思った企画書が認



写真2 設計計算書の照査中

やまもと・しゅうじさん

1950年、北九州市生まれ。九州大学大学院修了後、運輸省へ入省。その後、港湾技術研究所、関西国際空港(株)、港湾技術研究所設計基準研究室長、国土技術政策総合研究所港湾研究部長を歴任。現在、(財)沿岸技術研究センター理事。61歳。

められませんでした」と、過去を思い出されながら、「1回で100%を目指して時間を浪費するより、70%の結論で確認を受けて早期に軌道修正を重ねることが結果としては短時間になることに気が付いた」と語られた。そのため山本さんが心がけているモットーは、「顔を見て話そう」である。最近の技術者を見て心配になることは、「近くの席にいるのにメールで相談したり、調べごとばかりあえずインターネット検索。頭の中で体系的に考え、顔を見ながら相談をする方が効率的だと思えます」と、技術者としてのあり方を語られた。

腕 マニュアル技術者になるな！ 誇りを持って！

もう一つ、「マニュアル技術者にはならないで欲しい」と嘆く山本さん。「技術者は評論家になつてはダメだ。評価基準を超えれば満足をするのではなく、誇りを抱いて最上を目指せ」と力説された。それは、英国規格 British Standardに示された次の文章からも学ぶことができる。

一、技術者は、よく学びよく経験を(1)したむ。

It has been assumed in the drafting this British Standard that the execution of its provisions is entrusted to

appropriately qualified and experienced people, for whose guidance it has been prepared.

二、技術者は基準を超えるだけ満足をしてはいけない。(2)

Compliance with a British Standard does not of itself confer immunity from legal obligations. Therefore, use of the British Standards by coastal and maritime engineers in the UK is not mandatory and does not relieve them of their duty to meet other legal or professional obligations, such as safety.

腕 学生へのメッセージ.. 論語に学べ！

そんな山本さんに「技術者としての信念を養う方法は？」と尋ねた。すると、「論語を読んでみましょう！」と熱く語り、三つの言葉を引用された。

一、子曰、君子求諸己。小人求諸人。
(君子は過ちがあれば、自分に反省点を求めるが、小人は他人に求める。)

二、子曰学而不思即罔。思而不学即殆。
(学んだだけで自分で考えないと、はつきりわからない。一人で考えているだけで広く学ばないと、狭く偏つ

てしまふ)。

三、曾子曰、吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。興朋友交而不信乎。伝不習乎。

(前段省略。自分が十分に理解していないことを人に伝えていないか)。意味合いを伺うと、「よく学び、よく経験し、何事も最後まで自分で責任を持つように努める技術者であれ！」ということですよ」と、力強いメッセージを送られた。

腕 取材を終えて

手計算から電子計算機の時代を経験され、技術基準策定にも携われた山本さん。私たちにとって、一生を港湾に捧げてきた山本さんは、とても魅力的な技術者として憧れを抱いた。これも無数の失敗から一つの解を見出す喜びを経験しておられるからではないかと感じている。私たちが積極的に行動し、失敗から学び、少しでも立派な技術者になれるよう鍛錬を続けていきたい。

出典

(1) 英国の基準作成機関が策定した BS (British Standard) と土木技術者の関係の序文
(2) BS 6349-1 Maritime Structure. Part.1: Code of Practice for general criteria. Published by British Standard Institute (BSI).

学生編集委員 三室 碧人、澤村 康生